

行政視察 （会派新政クラブ）

【視察項目】 笛吹市の防災アプリの導入と活用について

【報告者】 鈴木正一

【視察日時】 令和7年11月6日(木) 10時から12時

「視察場所」 山梨県笛吹市八代支所 会議室



「対応者」 議長 神宮司 正人、総務常任委員会 山田宏司

総務部 防災危機管理課長 保崎貴之、 防災担当 高橋謙洋

議会事務局 局長 井上博之、 事務担当 橋田美穂子、小澤卓也

「視察目的」 防災アプリの導入とアプリについて、先進的な取組を実施している観点から視察した。

「笛吹市概要」 平成16年10月に、石和市、御坂町、一宮町、八代町、春日居

町、鏡川村が合併し笛吹市が誕生。笛吹市章を制定 人口 67,271 人

(男子 32,793 人、女子 34,478 人) 世帯数 30,548 世帯

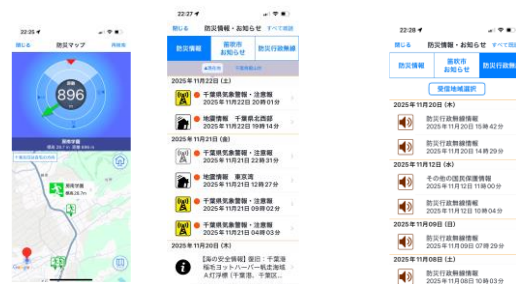
【視察内容】

① 防災アプリの機能について



笛吹市では、令和7年2月1日から「笛吹市公式防災アプリ 防災ふえふき」の運用を開始しました。このアプリでは、防災行政無線の放送履歴を表示し、過去の放送内容を確認することができます。また、音声再生ボタンを押すと防災行政無線の音声を再生することも可能です。さらに、現在地周辺の避難所を自動検索して地図に表示する機能や、浸水想定区域や土砂災害警戒区域などのハザードマップ、想定震度分布図などを表示する機能も備えています。安否登録機能もあり、Googleの感想ファインダーを使用して自分自身の安否登録やご家族の安否確認ができます。英語、中国語、韓国語にも対応しており、多言語で情報提供が可能です。

② マイタイムラインについて



マイタイムラインは、自然災害に備え、自分自身や家族のとりべき行動について、いつ何をするのかをあらかじめ時系列で整理し、命を守る避難行動に役立てるための計画です。

笛吹市では、各世帯において災害時の行動計画を立ててもらうため、災害種別ごとの計画が立てられるよう計画様式を作成し、市内全戸に配布しました。

マイタイムラインの作成方法としては、まずハザードマップを使って自宅周辺で起こる恐れのある災害を確認し、災害発生時に自分自身や家族がいつ何をすべきかを考え、時系列に沿って行動を確認します。

水害・土砂災害用と地震災害用の2種類のマイタイムラインがあり、それぞれの災害特性に応じた避難行動を計画します。



③ 地区防災計画の作成支援

地区防災計画は、災害時に自分たちの地域を自分たちで守るため、自治会において自助共助の観点で日頃の準備や災害時の役割等について地域住民が話し合い作成する計画です。

笛吹市では、各自治会における地区防災計画の作成を市が支援することで、この計画の作成を促進しています。令和3年度から3か年をかけてモデル地区となる自治会の計画をコンサルタント会社に委託し、自治会、市、コンサルが参加するワークショップを開催して作成してきました。

現在、市内全体で132ある自治会のうち、48の自治会で作成済み、14の自治会で作成中となっており、全体の作成率は47%となっています。市の役割は、資料の提供、計画作成のためのワークショップの進行、計画の取りまとめ等の支援です。

【質問回答】

みんなで作る
『地区防災計画』
ワークショップ資料



・富士山噴火対応とマイタイムライン

富士山の噴火対応について質問がありました。笛吹市は溶岩流の影響はないが、灰が降ってくる恐れがあり、5センチから最大30センチの降灰が想定されているとの回答がありました。防災アプリでは、噴火の恐れがある場合には警報等を表示する機能があります。また、マイタイムラインについては、各家庭で作成して活用するものであり、行政区で集約するものではないとの説明がありました。ただし、地区防災計画作成の際に、マイタイムラインの作成状況を確認することはあるとのこと。また、地震発生時の避難行動について、館山市と笛吹市では対応が異なり、笛吹市では地区の中で自治会ごとに決められた一時避難場所に避難し、安否確認を行うことが説明されました。

・防災アプリの導入と高齢者対応

防災アプリの導入経緯や高齢者への対応について質問がありました。防災アプリ導入のきっかけは、台風等が来た時に屋外の防災行政無線が聞こえないという課題を解決するためであり、市からの緊急のお知らせを市民に直接届けたいという目的があったとの説明がありました。高齢者への対応としては、防災アプリだ

けでなく、メール、LINE、Xでの情報発信、電話での聞き取りサービスなど複数の手段を用意しているとのこと。また、地区防災計画の作成支援については、職員が各行政区に出向いてワークショップを開催するなど、積極的に支援していることが説明されました。



・防災アプリの導入費用とふるさと納税

防災アプリの導入費用や財源について質問がありました。財源は緊急防災・減災需要債を活用し、充当率は100%、国からの補助が償還金の70%とのこと。導入費用は2,200万円、年間のランニングコストは422万4千円との説明がありました。また、笛吹市のふるさと納税について質問があり、前年度は37億円で、今年度は50億円を目指しているとの回答がありました。特に9月だけで9億円の寄付があり、桃とブドウが人気の返礼品とのこと。

・マイタイムラインの活用方法

マイタイムラインの配布方法や活用方法について質問がありました。マイタイムラインは世帯に1枚ずつ配布し、笛吹市のホームページからもダウンロードできるようにしているとの説明がありました。また、チェック欄の使い方については、平時に確認するためのチェックと災害発生時に確認するためのチェックの

両方の使い方があり、各家庭の状況に応じて柔軟に活用できるとのことです。さらに、進んでいる自治会では、マイタイムラインを組ごとに把握し、どこのお宅がどこへ避難するのかを掌握している例もあるとの説明がありました。

・防災無線との関係と今後の課題

防災アプリと防災無線の関係について質問がありました。現在は防災無線の屋外放送とアプリを並行して運用しているが、屋外拡声子局（スピーカー）が266ヶ所あり、老朽化が進んでいるため、今後は集約を検討しているとの回答がありました。また、防災アプリの課題としては、ユーザー登録数をいかに増やしていくかが挙げられ、現在約4,000のダウンロード数があるとのこと。今後の改善点としては、防災アプリやマイタイムラインの周知を進めることが重要であり、小学校や中学校での出前講座などを通じて少しずつ浸透させていきたいとの説明がありました。

【これからの進め方、課題】

・ 笛吹市防災危機管理課が防災アプリのユーザー登録数を増やすための周知活動を継続する。

・ 地区防災計画の作成率100%を目指して、残りの自治会への支援を継続する。

- ・来年度にハザードマップを更新し、全戸配布する。
- ・小学校・中学校への出前講座を通じてマイタイムラインの周知を進める。
- ・防災行政無線の屋外拡声子局の集約を検討する。
- ・甲府市を中心とした山梨県中央連携の取り組みの中で防災に関する情報共有を継続する。

【視察の感想】

市長が「防災のトップランナー」を目指す考えを表明し、それに対して前向きに実践していることに感銘しました。予想される災害に対しては早め早めの対策が重要であると考えます。

地区防災計画は、地区の住民が自ら「考え」、話し合いながら「つくる」自発的な防災活動に関する計画です。「共助の向上」＝「地域防災力の向上」をめざし、作成しています。笛吹市の取組みを参考にして、館山市でも活かしていきたいと思います。

最後に、視察研修を受け入れ、丁寧に対応して頂きましたことに感謝致します。

